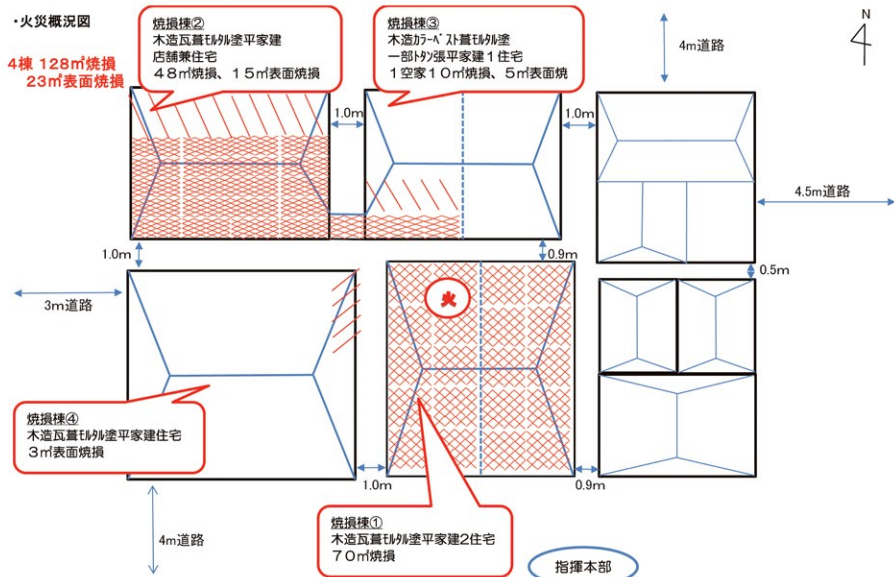


の人も全員避難済みや」との情報が提供があった。これらの協力により、消防隊は早期に消火・延焼阻止を優先した活動に専念することができた。



舗や近所の方々からは、消防隊員に対して十分な水や飲み物も提供され、労いの言葉まで載っている。この事により、隊員それぞれが勇気づけられ、より一層奮起したこと

夏場の昼間という酷暑の中、住宅等4棟、およそ1300㎡を焼損したこの火災において、人的被害を最小限に抑え、消防隊員も熱中症に陥ることなく活動できたのは幸いであった。

その要因として、早期の増強要請による活動隊員の確保、早め早めの休憩、水分補給等、指揮者本部長の好判断があったことは言うまでもないが、特筆すべき事として地域住民の協力が挙げられる。

先着隊が到着した時、負傷していた火元住人をいち早く保護し、付近住民への避難の呼び掛けも行い、消防隊にその情報を伝えていた。更に近くの店

は言うまでもない。

おわりに

消防隊員にとって、災害現場で市民の生命・身体・財産を守ることは当然の職務であり、日頃から厳しい訓練や体力トレーニング等を積み重ね、熱中症対策にも取り組んでいる。

また、現在消防局では大阪市立大学と協力して、火災現場等暑熱環境下における消防隊員の体温・脈拍・呼吸等の変化を測定し、熱中症対策や安全管理面を科学的にも研究・検証を進めているところである。しかし、今回の火災現場における全体の活動を見ても分かる

ように、各消防署における日頃からの地域住民の方々との相互に協力できる良好な関係の構築が、消防力の何よりの支えとなっている。災害現場では、地域住民の方々からの情報提供の有無により消防隊の活動は大きく左右される。地域、行政の緊密な連携体制の構築が、更なる消防力・防災力の強化に繋がっていくことは間違いないであろう。そして、この緊密な連携体制を維持・発展させていく事こそが、将来発生が予測される南海トラフ巨大地震等の大規模災害を乗り越えていく手段の第一歩となるのではないだろうか。

(文責 綾垣)

